

聖書における最大の極悪人「大バビロン」

聖書中で、サタンを除けば、最も重罪とされているのは「大バビロン」です。

「彼女の罪は積み重なって天にまで届き、神はその不義を覚えておられるからである。」（黙示録 18:5 新共同訳）

この大バビロンについて、何度も読んでいますが、今回、改めて「ん??」と疑問に感じた部分があったので検証してみることにしました。

それは黙示録 18 章の 23 節です。

「なぜなら、おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、すべての国々の民がおまえの魔術にだまされていたからだ。」（黙示録 18:23）

「地上の高官となっていた」（岩波翻訳委員会訳）

「地上の権力者となった」（新共同訳）

「地の有力者であった」（前田訳）

「地上の力ある者どもで」（新改訳）

「地の権力者となり」（塚本訳）

「地上で勢力を張る者となり」（口語訳）

「地の大臣となり」（文語訳）

この、高官、権力者などと様々な訳語が当てられている語はギリシャ語の [メギスタネス *μεγιστᾶνες*] という語です。

ここでは、大バビロンが裁かれる理由、いわゆる有罪判決の根拠としての「事実認定」が行われているところですが、興味深いことに、ここに三様の立場（職業？）が登場します。

「お前」と「商人」と「権力者」。

元々は「お前」つまり「大バビロン」

では、「お前の商人」とは何でしょうか。

そしてその商人は、単なる商人ではなく「地の権力者」ともなった

それ故に「大バビロン」が滅びに値する理由の一つとされています。

この「商人」は少し前に出て来る、「災いだ」と嘆く「地の商人」（18:11）と同一でしょうか。

また「地の権力者」とは同様に嘆く「地の王たち（18:9）」のことでしょうか。

これら二者は「他人事」のように離れて嘆きます。

大バビロンはこれら二者と密接な関わりがあったとしても、別物である「商人」が「権力者」となったからといって、それ故に「大バビロン」が断罪されるというのは、つじつまが合わ

ないでしょう。

ですから、この表現から考えますと、「お前の商人が地の権力者と成った」ことが「お前」の有罪の根拠の一つだということですから、基本的に、元々は一つ、同一の輩と言う事なのでしょう。

18：11の方の「商人」と「彼女」の関係は「商社と大得意先」という感じでしょうか。しかし、23節の「商人」はどちらかと言うと、問屋というより問屋に卸しているメーカーという感じなのでしょう。

ですから、「お前の商人」とは、大バビロンの商業担当部門のような、それに「所属」している商人のことに違いありません。つまり「同じ穴の貉」ということです。

この「商人」と訳されている語は、「ギ語：エンプロス」で [en]+[pros] から成っており、字義的には [in a way of passage 「旅の途にある」 という意味です。

ですから、単に商いをしているという意味ではなく、広範に渉り歩く商人で「旅の商人」「貿易業者」とも訳し得るということです。

また「権力者、勢力を張る者」などと訳されている語は「メギスタネス」で、他に「領主、廷臣、総督、貴族」という意味を持つ語です。しかし、「王」という立場ではありません。実際、「お前の商人」が「地の権力者（複数）」となったということですから、職業を換えたというより、商人のまま、多大な権力を有するようになったということに違いありません。

これは「王」よりも低い権力のある立場と考えるより、公の立場と言うより、実質的な権力、影で牛耳っている物、あるいは「黒幕」と捉えた方が文脈に沿うように思えます。

実際の所、宗教と、かき集めた莫大な財力、そしてその影響力で思うがままに世を操ってきた。これが本来の断罪すべき罪状ということなのでしょう。

これらの表現を現代に照らして考える時、「旅の商人」とは世界を股にかけて商売を行う「多国籍企業」という語が最も言い得ていると思います。

(※「多国籍企業」(たこくせききぎょう、multinational corporation、MNC)とは、活動拠点を一つの国家に置かずに複数の国にわたって世界的に活動している営利企業のこと)(wikipedia)

今や、マスコミを手なずけ、新たな法律を作ったり、紛争や戦争を勃発させるなど、政治家やテロリストたちを動かしているのは、その裏にいる大企業、財閥であり、あるいは、国際

金融資本家などでしょう。

そしてそれらのムジナと同じ穴に住んでいる、いわゆる歴史的に古来から現代にまで続く「領主、廷臣、総督、貴族、王族」たち、裏の顔を持つ、慈善的な宗教家に見える輩たちこそが、総合的大バビロンの正体であり、同時に、それこそが、裁きの根拠となる、と断言しているのが、この黙示録 18：23 なのであると考えます。

別の表現で言えば「グローバリスト」ということになります。

終末期に裁かれる事になる、大バビロンは、その時点で組織宗教という淫婦（娼婦）たちの元締めであるだけでなく、銀行など金融 / 商業システムを含む、国際的大企業の元締めでもあり、表舞台で駆け引きを行う政治家たちの黒幕という要素全てを持ち合わせている。というのが、黙示録 18：23 から見えてくる、大バビロンの正体です。

それは多くの聖書的根拠から、バチカンに他ならないと考えられます。

「大バビロン-バチカン」については詳しくは「31 大いなるバビロンの正体を見極める」をご覧ください。

余談になりますが、その大極悪人の「大バビロン」をさえうまく丸め込んで、結託した形で登場するのが、8人目の王、つまり「反キリスト」です。